

2014年度大学入試センター試験 解説〈倫理〉

第1問 青年期，現代社会分野（配点 28）

問1 正解は③。

- ③ 「仏教の慈悲の精神に基づいて」が誤り。日本初の社会主義政党である社会民主党の結成に参加した片山潜は、アメリカ留学中に洗礼を受けてキリスト教徒となっている。片山潜をはじめ、安部磯雄・木下尚江など、明治・大正時代の社会主義運動の指導者には、キリスト教の博愛の精神から出発した者が多い。
- ① フランス人医師シュヴァイツァーについての正しい説明。
- ② 国境なき医師団（MSF）についての正しい説明。1999年にはノーベル平和賞を受賞している。
- ④ 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）についての正しい説明。20世紀末には日本人の緒方貞子が高等弁務官を務め、精力的に活動を行った。
- ⑤ マケドニア出身のマザー・テレサについての正しい説明。インドで「孤児の家」、
「死を待つ人の家」の建設などに取り組んだ。

問2 正解は③。

- ③ センター試験倫理で定番のグラフ読み取り問題である。先入観を排し、数値を正確に読み取って正誤を判定することが肝心だ。特に本問は、「実験の手順」も丁寧に押さえる必要がある。③は後半の「選択肢が一つ増えると、割合の高さも納得度の高さもAとBで逆転する」が誤り。割合は逆転しているが、納得度はBの方が高いままで変わっていない。
- ①②④ いずれも図から読み取れる内容に合致する。

問3 正解は⑤。

- ア 「自分の価値が分からなくなり」が、C「エリクソンが述べた、自我同一性の拡散」の状況に合致する。
- イ 「生涯にわたって打ち込める仕事をじっくり探すことが大切」が、A「オルポートが挙げた、成熟した人格の特徴」の一つである「人生を統一する人生哲学」に合致する。
- ウ 「自分の働きぶりを上司や同僚から認めてもらいたいと思う」は、B「マズローの理論における、欲求の階層構造」の「承認欲求」に合致する。

問4 正解は②。

- ② 資料文読解問題もセンター試験倫理の定番で、今年度は計4問出題された。学習した知識を踏まえ、資料文の内容を丁寧に読み取って解答しよう。センは、インド出身の経済学者で、アジア初のノーベル経済学賞受賞者。発展途上国における貧困から人々を救うには、経済的・物質的な援助だけでなく、識字能力などの**潜在能力**の開発が不可欠であると指摘した。②の「民主主義の確立や教育の拡充などが必要である」との記述は、資料文の内容とも矛盾しないことはもちろん、センの考え方とも合致する。
- ① 「関税障壁の撤廃など、保護主義に陥らない取組が求められる」とする内容は、リード文からは読み取れない。
- ③ 「国際的な企業は得てして～民主国家よりも～独裁主義国での活動をはるかに好みます」とのリード文の記述に反する。
- ④ 国際的な企業は「貧しい人々の窮状を改善し、識字率の低さや医療不足の克服のためにも力を注いでいる」が誤り。

問5 正解は③。

- ③ アメリカの政治学者**ロールズ**からの出題は、2006年度本試験以来である。自由で公正な競争が保障されたうえで、競争によって生じる格差は、社会的に不遇な人々の生活の改善につながる限りにおいて認められるとする、「**公正としての正義**」の原理を提唱した。
- ① 古代ギリシアの思想家**アリストテレス**が説いた調整的正義（矯正的正義）についての説明。
- ② 功利主義の創始者**ベンサム**が掲げた「各人は等しく一人として数えられ、だれもそれ以上に数えられてはならない」についての説明。
- ④ 社会契約説の思想家**ロック**についての説明。

問6 正解は①。

- a フランスの思想家**サン＝シモン**は、同じくフランスの**フーリエ**、イギリスの**オーウェン**らとならび、格差や搾取のない理想社会を構想したが、**第4問問6** で問われている**エンゲルス**から、資本主義に対する分析が不十分であるとして**空想的社会主義**と批判された。**コント**は、実証的精神を発揮した学問として社会学を創始したフランスの思想家。
- b 19世紀には、格差・貧困・失業といった**資本主義**の矛盾が表面化していた。絶対主義（絶対王政）とは、16～18世紀のヨーロッパで展開された、王権への集権化が進んだ政治体制のこと。

- c マルクスとエンゲルスがプロレタリア革命を主張したのに対して、ドイツ社会民主党の指導者であるベルンシュタインや、ウェップ夫妻らイギリスのフェビアン協会のメンバーは、議会を通じて資本主義の欠陥を改善することを目指した。こうした、議会制民主主義のもとで漸進的に社会主義の実現を図る立場を**社会民主主義**という。

問7 正解は④。

- ア 正文。1997年に採択された**京都議定書**では、アメリカ（批准せず）・日本・EU諸国などの「先進国だけに」温室効果ガスの排出削減目標が数値化して定められた。現在では世界最大の温室効果ガス排出国である中国をはじめ、発展途上国には削減は義務づけられなかった。
- イ 誤文。アメリカの海洋生物学者カーソンの著書は、正しくは『**沈黙の春**』。1962年に発表され、世界に警鐘を鳴らした。『**奪われし未来**』は、アメリカの生物学者コルボーンらが1996年に環境ホルモン（内分泌かく乱物質）の危険性を警告した著書。よって誤り。
- ウ 誤文。1992年開催の地球サミット（国連環境開発会議）において基本理念とされたのは「**持続可能な開発**」。宇宙船地球号は、1960年代にアメリカの経済学者ボールディングらによって提唱された言葉。地球という閉ざされた環境において、全人類が同じ船の乗組員という意識をもって環境問題に取り組むべきだと説かれた。

問8 正解は④。

- ④ ヤマアラシは、身体に針があるため、暖めあうために近寄ろうとしても針が刺さってしまう。精神分析学の創始者フロイトは、この話をドイツの哲学者ショーペンハウアーの文献から引用し、適度な心理的距離のとりがたさを**ヤマアラシのジレンマ**と名づけた。
- ① ドイツの心理学者**レヴィン**は、大人の集団にも子どもの集団にも属さない青年期の若者を指して**境界人（マージナル・マン）**と呼んだ。葛藤と結びつけた選択肢文の説明は誤り。
- ② ドイツの心理学者**シュプラング**は、その人が追求する価値によって、理論型・経済型・審美型・社会型・権力型・宗教型の6つの性格の類型に分けた。心のエネルギー（リビドー）が向かう方向によって内向型・外向型に分類したのは、スイスの精神分析学者**ユング**である。
- ③ **防衛機制**とは、欲求不満や葛藤によって生じる不安や緊張から自我を守るために働く心のメカニズムのこと。「心の安定が乱され、不安や緊張に陥る」は説明として誤り。

問9 正解は④。

- ④ ステレオタイプとは、紋切り型で決まりきった物の見方や考え方のこと。2010年度本試験では、具体的な発言をもとにステレオタイプの見方を判断させる問題が出題されている。
- ① 異文化に出会ったときに「心に生じる違和感や衝撃」をカルチャー・ショックという。カウンター・カルチャー（対抗文化）とは、主流である既存の文化に対抗する文化のこと。
- ② ノーマライゼーションとは、障害の有無や年齢、性別などの違いを乗り越え、すべての人が同じ生活者として共生する社会を目指す考え方のこと。「少数派の文化を、多数派の文化のなかに同化・吸収させ」ようとは考えない。
- ③ それぞれの文化に固有の価値を認め、そこに優劣はないとして、「互いに尊重し合おうとする考え方」を文化相対主義という。パターナリズム（父権主義・保護的温情主義）とは、医師と患者、教師と生徒といった圧倒的な力関係において、父親が子どもに口出しするように保護を名目に干渉を加えること。

問10 正解は③。

- ③ Aについての指摘は3つ目の発言、Bについての指摘は4つ目の発言の内容に合致する。
- ① Aが「市場とは別の仕組みが必要だと考えている」とは、リード文からは読み取れない。また、Bは「寄付」よりも「フェアトレード」による持続的な支援を重視しており、「寄付する仕組みが必要だと考えている」は誤り。
- ② 「価格競争を通して公正を実現する」が誤り。Bは3つ目の発言で「市場競争にまかせたままだと～生産者に適正な対価が払われないことがある」ことを指摘して、「それって、公正って言えるかな？」と疑問を呈している。
- ④ Aが「社会全体の富を増やすことが必要だと考えている」とは、リード文からは読み取れない。

第2問 源流思想 (配点 24)

問1 正解は①。

- ① アリストテレスは、欲望を抑える節制などの徳は中庸 (メソテース) になつた行為を実際に繰り返し実践することで初めて身につく習性的徳であると考え、学習によって身につけられる知性的徳と区別した。
- ② アイデアを観想することで欲望を制御することが可能になるとするのは、アリストテレスの師プラトンである。
- ③ 魂の平安 (アタラクシア) を実現するために無用な欲望を捨てようとするということであるから、ヘレニズムの思想家エピクロスの立場と考えられる。
- ④ 禁欲により魂の浄化された境地 (アパテイア) を目指すのは、③と同じくヘレニズム期の哲学者であるストア派のゼノンである。

問2 正解は⑦。

- a ストア派の開祖はゼノンである。ここで「理法」あるいは「理性」と呼ばれているのはギリシア語の「ロゴス」であり、ストア派は宇宙と人間をロゴスという概念において統一的に理解した。
- b ゼノンらはロゴスを分有するという意味で世界中の人間を平等な存在と考え、これが都市国家 (ポリス) の枠に囚われてきたそれまでのギリシア人に対し、ポリスを超える世界市民主義 (コスモポリタニズム) の主張へとつながった。

なお、キケロとセネカはともにストア派の影響を受けたローマ帝国の政治家・哲学者である。社会有機体説は19世紀のコントやスペンサーがとった立場であり、配分的正義はアリストテレスが分類した正義の一つ。

問3 正解は①。

- ① イスラーム教においてムハンマドは「最後の預言者」と位置づけられているので、ムハンマド以後にアッラーがカリフ (ムハンマド以後のイスラーム共同体の指導者) に啓示を与えることはない。
- ② アッラーの教えは宗教的なものばかりでなく、世俗的な規律にまで及んでいる。
- ③ イスラーム教では唯一神の絶対性が強調されるので「神の子」といった概念はありえない。イスラーム教ではムハンマドはあくまで人間とされる。
- ④ ムスリム (イスラーム教徒) の宗教的義務 (五行) の一つにメッカへの巡礼がある。

問 4 正解は③。

- ③ 儒家が人間社会の秩序を整えることに心を砕くのに対し、**莊子**は人間界の善悪などの価値観を超越する**万物斉同**を説いた。
- ① 儒家についての記述と**莊子**が**心齋坐忘**を説いたという記述は正しいが、「絶対神と一体となるべき」という記述が誤り。**莊子**は道との一体化を説いている。
- ② 儒家についての記述は正しいが、**小国寡民**を説いたのは**莊子**ではなく**老子**。
- ④ 儒家についての記述と**莊子**が**逍遥游**を説いたという記述は正しいが、「**浩然の気**」は儒家の**孟子**が説いたもの。

問 5 正解は②。

- ② イスラーム教はキリスト教と同様に唯一神への信仰によって万人が救われると考えており、民族の差別は否定されている。
- ① **荀子**は**性悪説**の立場から欲望を抑えるべきことを説いたが、それは礼の力によってなされるべきであるとされる。法律によって人の欲望を制御しようというのは**法家**である。
- ③ 愛するものと別れる苦しみとは「**愛別離苦**」のことであり、四苦ではなく**八苦**に位置づけられる。
- ④ **問答法**によって人々を知に誘おうとしたのは**ソクラテス**である。

問 6 正解は④。

- ア 正しい。ユダヤ教パリサイ派からの回心者である**パウロ**は、人間は善を願いつつも悪をなしてしまう存在であるとして、救済のためには**イエス**によってもたらされた福音を信仰するしかないと説いた。
- イ 誤り。教父**アウグスティヌス**は、人間は自由意志によって悪へと向かうことはあっても自由意志によって善をなすことはできないとして、ただ**神の恩寵**によってのみ救われると説いた。
- ウ 誤り。**イエス**は、誰もが罪人であるから、他者を裁くのではなく、赦し、助け合うことが大切であると説いた。

問 7 正解は④。

- ④ 八正道の一つ「正定」とは、正しい瞑想のことである。仏教では瞑想によって精神統一することによって悟りを目指す。
- ① 「正語」とは正しい言葉遣いのことである。
- ② 「正見」とは正しいものの見方を指す。
- ③ 「正精進」とは仏道における正しい修行全般を指し、いわゆる「精進料理」をとることを意味するわけではない。

問 8 正解は②。

- ② 大乘仏教においては自らの悟りを目指すこと以上に苦しむ衆生を救済する利他行が重視され、その実践を目指す修行者が菩薩と呼ばれる。
- ① 仏教では固定的な実体(我)が一切存在しない(諸法無我)という前提に立つので、「衆生の固定的実体」を前提とする主張は誤り。資料文では、自我や個我、衆生や命あるものといった観念への執着も捨てるべきことが説かれている。また、「菩薩は、衆生を導く働きを放棄し」も誤り。
- ③ ①と同様、「衆生の固定的実体」を前提とする主張は誤り。「自分にとって身近な衆生から」という記述もない。
- ④ 「菩薩は、まずは自分が悟りを開き仏となり」が誤り。

問 9 正解は③。

- ③ リード文では欲望に囚われすぎることの問題点がテーマとなっており、第2段落では欲望に囚われると自由で理想的な生を送れなくなること、第3段落では欲望を抑えることで他者とのよい関係が可能になることが指摘されている。
- ① 欲望追求による「欠乏感」や「社会全体の利益」という点についてはリード文で言及されていない。
- ② 「自然の法則に調和した生き方」が必要だという主張はストア派などに見られるが、このリード文では言及されていない。また他者との関係という点では、他者に迷惑をかけるべきでないという消極的な理由で欲望の抑制が説かれているというよりも、むしろ他者より深い関係を結ぶことを可能にするという理由から欲望の抑制が説かれている。
- ④ リード文では「他者との関わりもなるべく控えるような隠遁的生活」ではなく、他者との深い関係が大切だとされている。

第3問 日本思想 (配点 24)

問1 20 正解は③。

- a 「読経」が入る。神前で行うものとして神仏習合の説明になるのは、本来仏教の儀式である読経である。「祓い (祓え)」は神道の儀式。
- b 「権現思想」が入る。仏が仮に神として現れることを権現思想 (本地垂迹説) という。「御霊信仰」は災厄の原因を怨霊に求め、その祟りを鎮めて平穏を祈る信仰のこと。

問2 21 正解は④。

- ④ 源信は天台宗の僧で、地獄を詳細に描写して極楽浄土を際立たせる『往生要集』を著し、観想念仏による極楽往生を説いた。
- ① 天台宗の僧で、諸国を遊行しつつ浄土信仰を広めて「阿弥陀聖」あるいは「^{いちのひじり}市聖」と呼ばれた空也についての記述。
- ② 源信が『往生要集』を著した頃に『日本往生極楽記』をまとめた^{よしげのやすたね}慶滋保胤についての記述。
- ③ 念仏札を配り歩き^{すてひじり}「捨聖」と呼ばれたのは鎌倉時代に現れた時宗の開祖・一遍である。

問3 22 正解は②。

- ア 正しい。吉田兼好は鎌倉後半に神官の子として生まれたが、出家して無常のうちに趣を見出す『徒然草』を著した。
- イ 正しい。世阿弥は幽玄を旨とする美意識により『風姿花伝』をまとめ、父の観阿弥とともに能楽を大成した。
- ウ 誤り。茶道の大成者である千利休が「わび」を重んじたというのは正しいが、「わび」とは簡素さのうちに美を認めるものであって、華麗なものはしりぞけられる。

問4 23 正解は①。

- ① 代表的な国学者・賀茂真淵は『国意考』を著し、日本人の伝統的な精神を称揚した。
- ② 『都鄙問答』は商人の営利活動を正当化した石田梅岩の著書である。
- ③ 『万葉代匠記』は国学の先駆者・契沖の著書である。
- ④ 『自然真営道』は神儒仏のいずれをも批判した安藤昌益の著書である。

問5 [24] 正解は②。

- ② 二宮尊徳は農業の営みが天地自然による恩に依存するものであるとして、これに対して徳をもって報いる**報徳思想**を説いた。その具体的方法として、将来に備えて蓄える**分度**と、その結果としての余剰を他者にお返りする**推譲**がある。
- ① 農業が「人間の努力の結果である」とされている点が誤り。
- ③ 尊徳は天地自然の働き（**天道**）と人間の働き（**人道**）を調和させるべきという立場であって、人間に都合の悪い雑草まで尊重すべきという立場ではない。
- ④ 確かに尊徳は人間の欲を一概に否定してはいないが、常に自らの願望を満たすことまで肯定しているわけではない。

問6 [25] 正解は⑥。

- ア **鈴木正三**が正しい。正三はあらゆる人々がその職分をまっとうすることが仏教の修行になるという「**職分仏行説**」を説いた。
- イ **熊沢蕃山**が正しい。中江藤樹のもとで学んだ江戸期の代表的な陽明学者で、岡山藩に仕官した際には洪水対策など藩政に尽力した。
- ウ **石田梅岩**が正しい。商人出身の学者で、神道・儒教・仏教を融合した石門心学を創始し、商人の営利追求を正当化した。

問7 [26] 正解は②。

- ② **南方熊楠**は近代日本を代表する生物学者・民俗学者であり、明治政府による**神社合祀令**に対して宗教的・生態学的に断固として反対した。
- ① 名もない民衆（**常民**）の生活文化のなかから日本人の精神性を明らかにしようとして日本民俗学の祖となったのは、**柳田国男**である。
- ③ 「**まれびと**」のなかに日本人の神観念の原型を見出したのは、柳田の弟子でもあった**折口信夫**である。
- ④ 足尾鋇毒事件に対して農民の立場から解決に向けて尽力したのは**田中正造**である。

問 8 正解は④。

- ④ 資料文では、風土において自己を了解するということが客観から切り離された西洋近代哲学的な「主観」を理解することではなく、「自然の暴威」に対して社会的に関わりあう態度を了解することであると述べられている。④で触れられている「個人であるとともに共同して生きる存在」とは和辻哲郎における「間柄的存在」のことである。
- ① 寒さを感じるときにも「孤立感」を感じるのではなく、子どもや老人をいたわるなど関心をもつことで共同存在であることが自覚される。
- ② 「対抗する手段をもっていない」という記述が誤り。
- ③ 「自然を客観的に捉える」というのは自然を自己から切り離す、明治以降に広がった見方であるが、資料文にそのような記述はない。

問 9 正解は③。

- ③ 日本人は古代と近世において自然への敬意をもって自然との調和を果たしていたが、近代に自然を支配の対象とみなす見方が広がるとともに様々な問題が生じてきた、というのがリード文の趣旨である。
- ① リード文では環境破壊について明確に語られていないが、示唆されているのは伝統的な自然観ではなく近代の自然観がもつ問題である。
- ② 「自然を客観的に把握する」近代的な自然観には「問題点」があるとされている。
- ④ 各時代の自然観が「自国の文化を批判することを通じて形成されてきた」とは書かれていないし、「過去の自然観を批判」すべきことが説かれているわけでもない。

第 4 問 西洋近代思想 (配点 24)

問 1 正解は③。

- ③ 人間性が尊重されたルネサンスの時代には、人間の能力を最大限に発揮した**万能人** (普遍人) が理想とされ、**レオナルド・ダ・ヴィンチ**をはじめとして、芸術・思想など多方面で活躍する人物が多く現われた。
- ① **工作人** (ホモ・ファーベル) は、フランスの思想家**ベルクソン**による人間の捉え方。
- ② **真人**は、古代中国の思想家である**荘子**が理想とした人間のあり方。
- ④ **超人**は、ドイツの実存主義の思想家**ニーチェ**が理想とした人間のあり方。

問 2 正解は③。

- ③ ルネサンス期のイギリスの人文主義者**トマス・モア**は、著書『**ユートピア**』において私有財産制度のない平等な理想社会を描き、土地所有者が囲い込みによって農民を貧困に追いやる当時の社会状況を批判した。なお、「ユートピア」とはどこにもない(ユー)場所(トピア)という意味である。
- ① **アダム・スミス**『**諸国民の富 (国富論)**』についての説明。
- ② **マキャヴェリ**『**君主論**』についての説明。
- ④ **ホッブズ**『**リヴァイアサン**』についての説明。

問 3 正解は②。

- ② 17 世紀フランスのモラリストである**パスカル**は、「人間は考える葦である」(『**パンセ**』)の言葉で知られるように、人間の尊厳を考える知性に見いだした。その際に、理性的に推論する幾何学的精神よりも、人間の心情の機微を直観的に捉える**繊細の精神**を重視した。
- ① 合理論の創始者である**デカルト**についての説明。
- ③ 経験論の創始者である**ベーコン**についての説明。
- ④ ルネサンス期のイタリアの人文主義者である**ピコ・デラ・ミランドラ**についての説明。

問 4 32 正解は④。

- a 「私の上なる星空と、私の内なる道徳法則」は、カントの著書『実践理性批判』の結びの言葉であるとともに、カントの墓碑銘としても刻まれている。自然界（星空）では必然的な法則が支配するが、英知界（私の内）では、自らの理性によって道徳法則が打ち立てられていることを表した言葉である。自然法は、人間の生まれながらの自然な本性である理性に基づいた、普遍的な法のこと。
- b 『判断力批判』は、『純粹理性批判』『実践理性批判』とあわせて「カントの三批判書」と総称される。『弁証法的理性批判』はこの後の問 8 36 で問われているサルトルの著書である。

問 5 33 正解は④。

- ④ 「事物の相互の結び付きを見いだす」が、資料文 1～2 行目の記述「いろいろの結び付きを発見し、それによって芸術作品を生み出す」に合致する。
- ① 「常に科学的な視点をもって、それぞれの事物を分析する」とする内容は、資料文からは読み取れない。
- ② ゲーテは 2012 年度本試験において、「汎神論的な世界観の影響を受け機械論的な自然観を批判した人物」として出題されているが、「自然のあり方に反するものであっても」は「汎神論的な世界観」と合致しないし、そのような内容は資料文からは読み取れない。
- ③ 「動物と～植物や自然の事物をきちんと区別し」とする内容は、資料文からは読み取れない。

問 6 34 正解は①。

- ① 社会主義の創始者マルクスについては 2 年連続の出題である。マルクスとその協力者であるエンゲルスは、人間の物質的な生産活動が土台（下部構造）となり、政治・芸術などの精神的な上部構造が形成されると説いた。
- ② 功利主義の創始者ベンサムが掲げた標語「最大多数の最大幸福」についての説明。
- ③ 冒頭の「世界は、絶対精神が自ら現実のものとなることによって展開していく」は、ドイツの思想家ヘーゲルの言葉「世界史は自由の意識の進歩である」を踏まえた記述である。マルクスは、ヘーゲルの説く弁証法を唯物論にとりいれ、唯物史観（史的唯物論）を打ち立てた。
- ④ イギリスの空想的社会主義の思想家オーウェンについての説明。オーウェンはアメリカに渡ってニューハーモニー村の建設を目指すなどしたが、「資本家の善意」に頼るという点にエンゲルスは限界を見ていた。

問7 正解は⑤。

ア 「文明社会のあり方を批判する」「自然状態からの墮落であると論じた」などの記述から、社会契約説を説いたルソーについての説明と判定できる。

イ 「単独者」「平均化・画一化」などの記述から、実存主義の思想家キルケゴールについての説明と判定できる。キルケゴールは、主体性を失って平均化・画一化した現代人のあり方を批判し、神の前にひとり単独者として立ち、神と向き合うことで真の自己を見いださうと説いた。

ウ 「知性を創造的なものとみなす」、「教育」などの記述から、プラグマティズムの思想家デューイについての説明と判定できる。デューイは、現実の日常生活において問題解決を図り、未来を展望する知性の働きを創造的知性と捉えるとともに、そうした能力を子どもたちに育む場として学校を重視した。

なお、ハーバーマスは対話的理性を説いたフランクフルト学派第二世代の思想家。昨年度も第1問で出題された。

問8 正解は①。

a 『嘔吐』は、実存主義の思想家サルトルの文学作品。意味のない偶然の世界に生きる実存の姿が表現されている。『第二の性』は、サルトルの事実上の妻であったボーヴォワールの著書。「人は女に生まれるのではない。女になるのだ」と述べ、社会的・文化的に縛られた女性のあり方を指摘した。

b サルトルは著書『実存主義はヒューマニズムである』において、「実存は本質に先立つ」と述べ、人間は自己の本質を自らの決断と行動によって規定していく自由な存在であるとした。

c フランスの文学者カミュは、『異邦人』、『ペスト』などの文学作品において、矛盾にみちた不条理な世界を生き抜く人々の姿を描いた。センター試験倫理では初出である。苦行はブッダが悟りへの道として否定したもの。

問 9 37 正解は②。

- ② 「想像力は、時に誤りや空想をもたらすものとして批判される」は第2段落、「一度現実から距離を取ることで、現実とは異なるものを思い描き」は第4段落の内容に合致する。「現実に対して創造的に関わることができる」との指摘もリード文から導くことができる。
- ① 「想像力は～社会的な問題を解決することには貢献できない」は、想像力の働きが「社会的実践」に与えた影響について指摘した第4段落の内容に合致しない。
- ③ 「想像力は、現実の社会においては、理性の助けを借りなければ役立つものではない」とする内容は、リード文からは読み取れない。
- ④ 「理想の世界のなかで生を営むことができるようになる」とする内容は、リード文からは読み取れない。第4段落の記述は、現実に戻ることを前提としている。